

V ワークショップ結果

ニーズ調査では調査しきれない生の声を聞くために、ワークショップを実施しました。

ワークショップでは、地域の人たちとともにテーブルを囲み、懇談をしながら身近な課題や子育ての悩みなどについて語ったり、地域で何ができるかななどを検討したりしていくことで、子どもたちを地域で育てていくという意識の高揚につながっていくことにもなり得ます。また、行政による保育サービスの充実はもちろん必要となりますが、話し合いの中で課題やニーズを解決していくために、行政の保育サービスだけに頼るのではなく、地域や行政などが一体となって取り組み、豊かな子育て環境を形成していくことが大切であることを意識していただけるような機会にもなります。

今回は、就学前のお子さんを持つお母さんと2回、そして、小学生本人のワークショップを実施しました。

就学前のお子さんを持つお母さん			
開催日時	第1回平成15年11月26日（水） 13:00～15:30	開催場所	美幌町子育て支援センター（集会室）
参加人数	参加者 4名 策定委員 8名	開催テーマ	「これから美幌の子育てが、めちゃ楽しい」
結果	別紙資料のとおり		

就学前のお子さんを持つお母さん			
開催日時	第2回平成16年2月6日（金） 10:00～12:00	開催場所	美幌町子育て支援センター（和室）
参加人数	参加者 7名 策定委員 5名	開催テーマ	「これから美幌の子育てが、めちゃ楽しい」
結果	別紙資料のとおり		

小学生			
開催日時	平成16年2月14日（土） 9:30～12:00	開催場所	地域コミュニティセンター（集会室）
参加人数	小学生 12名（5年～6年生） 策定委員 15名	開催テーマ	「夢のある美幌町を作ろう」
結果	別紙資料のとおり キッズチームとリトルチームの2テーブルに分かれて、「学校の授業以外でいつも何してる」「こんなことやってみたい、こんなものあったらいいな」をテーマに行われました。		

※別紙資料は、子育てお母さんと子ども達からのメッセージを参照して下さい。（ワークショップ風景）

VI 課題の抽出

1. ニーズ調査結果からの課題

【就学前児童】

- (1) 緊急時の対応において、「子どもだけで留守番をさせた」との回答数が 60 件あり、今後増える可能性があり、早急の対応策が求められる。
- (2) 子育ての現状で、「なんとなく不安や負担を感じる」「子どもをしかりすぎているような気がする」と回答した親が非常に多い。
- (3) 雨の日や冬場での遊び場の確保と使い方。
- (4) 保育サービスの充実（季節保育の利便性、保育時間の延長、支援センターの利便性など）
- (5) 子どもの過ごし方、自分の時間が不足。
- (6) 経済面での軽減、支援。
- (7) 仕事と家庭との両立。
- (8) 小児科などの医療対応の改善。

【小学校児童】

- (1) 母親の子育て負担。
- (2) 図書室、体育館（プール）、公演などの利用度をあげる。また、新たな遊び場の創出。
- (3) 地域活動やグループ活動の再検討、取り組みが必要。
- (4) 放課後児童クラブの条件設定の見直し。
- (5) 子どもの安全と安心の確保。
- (6) 冬場（雨の日）の遊び場の創出。
- (7) 緊急時への対応策（一時保育、預かり）。
- (8) 子育てに対する施策、支援の取り組み。
- (9) 児童館の早期開設。

2. ワークショップからの課題

〔就学前児童〕

- 小児科、産科婦人科医療への取り組み
- 子育てお母さんのリフレッシュ対策
- 子どもの病気等の緊急対応としての一時預かり体制
- 子育てサポート支援の組織づくり（保育ママなど）
- 保育所対応の拡充
- 地域支援センター、母子通園センターの利用拡充
- 父親の子育て参加意欲の向上
- 子育てお母さん仲間のネットワーク化
- 冬場や雨の日の遊び場づくり
- 児童館の開設（幼児から遊べる）
- 子育てサークルへの応援、協力
- 一時保育の充実、季節保育の期間延長など
- コミュニティハウス構想の実現化
- まちと地域と家庭との協力、支援体制の強化
- 子どもへの虐待、犯罪のない地域づくり、まちづくり
- 新しい住民が住みよいまちにして欲しい

〔小学生児童〕

子ども達が、美幌のまちで、「こんなことをやってみたい、こんな町にしたい、こんなものが欲しい」と提案した事項について、家族、地域、まち、そして、大人たちが、この子ども達と一緒に取り組んでいくための話し合いを確実に進めていくこと、また、早期の実証的取り組みを実現すること、継続的な活動体制の中に子ども達や親が協働することの3つが、早い段階での取り組みを必要とする課題です。

VII 基本メッセージ

1. 美幌町次世代育成支援行動計画の基本メッセージ

いつの時代でも、子どもの健やかな成長は親の願いであると同時に、社会全体の願いでもあります。現在の子どもは、物質的、経済的に恵まれた中で育っていますが、大人が築き上げてきた現代社会は、豊かな反面様々な問題を抱えており、子どもはそんな社会の影響を強く受けて生活しています。また、子育ても「子育てを楽しめない」「育児に自身がない」など子育て不安がごく一般的に見られるようになりました。

もはや「最近の親は……」と言ってすむ段階ではありません。子どもが健やかに育つことを支えることは、社会全体の責任であり、そのためには地域としてどうするべきかを真剣に考えるべき時です。

子育ての基本は家庭にあります。子どもは社会を構成する重要な一員であることから、子どもを心身とともに健やかに育むためには、家庭はもとより地域・学校・企業・行政等が、それぞれの役割を担いながら、「地域の子どもは地域で育てる」と「暖かく」かつ「積極的」に見守っていくとの共通認識のもと、次の3点の基本的な考え方に沿って、美幌町次世代育成支援行動計画の基本メッセージを設定しました。

《行動計画の基本的な考え方》

- ①美幌のすべての子ども達が健やかに育つよう応援する。
- ②美幌のすべての親がゆとりを持って子育てができるよう応援する。
- ③美幌の町民（地域）が子育てや子どもを暖かく見守り応援する。

基本メッセージ

子どもと、親と、地域が育つ…子育てが楽しい町づくり!!

☆☆☆この町で、子どもを育てたい! ☆☆☆

2. 行動計画の基本的な視点

本計画を策定するにあたり、以下に示す3点を「行動計画の基本的な視点」としました。

(1) 子どもの視点

子どもの成長や発達をどう支援していくか。

- ◎子どもの利益が最大限に尊重されるよう配慮し、大人だけでなく、子どもの視点に立った取り組みを進めていく。
- 子どもの健全育成のための、家庭・学校・地域が連携し本来の持っている教育力の活性化を図る。

(2) 親の視点

親が自信を持って子育てできるようどう支援していくか。

- ◎親もまた、日々の子育てを通して、親が成長していく存在です。
- すべての親が、心身とともにゆとりを持って子育てができるよう、色々な「サービスを受ける機会」や「学習の機会」を誰もが受けられるようにしていく。

(3) 地域の視点

子育てがしやすい地域づくりをどう行っていくか。

- ◎すべての家族が安心して子育てできるよう、地域全体で子育て家族を支えることによって、子育て家族が抱える様々な負担感の軽減を図りお互いが助け合いながら子育てのできる地域と、そのためのネットワークを地域みんなで創っていくことを認識する。

VIII 基本目標

美幌町次世代育成支援行動計画の基本目標は次の4つとし、各目標の達成を目指した施策の方向を設定しました。

1. 子育て家庭の支援

共働き家庭やひとり親家庭、障害のある児童を養育している家庭、虐待に遭った家庭、友人・知人がおらず頼る人のいない家庭、子育てに関する情報が行き届いていない家庭など、それぞれの子育て家庭では様々な問題を抱えており、母子保健事業や要保護児童への支援など様々な子育て支援サービスの充実を図っていきます。

1-1. 地域における子育て支援サービスの充実

1-1-1. 子育て支援サービスの充実

(1) 子育てサロン・子育てサークルの育成

地域においての子育て支援サービスを行っていく地域組織活動として、子育てサロン・子育てサークルを育成していくことは重要なことです。

そのためにも、北・西保育所跡や公共施設などを活動拠点として活用することで経済的負担を軽減させていきます。また、組織運営のバックアップとしてシルバー人材（老人クラブ等）に担っていただくことにより世代間交流の推進の役目を果たすことが期待されます。

(2) 地域での子育てイベントの実施

地域（自治会）で「子育て家庭」の実態を把握し、支援に取り組むためには、実際に子育て中の親子を知り合う必要があります。そのキッカケとするために地域のイベントなどに子どもが楽しめるような内容を組み入れたり、親子で参加できる子育てイベントを実施したりしていくことで、地域の人達と子育て中の親子に関わりが生まれるようなイベントの実施を推進していきます。

1-1-2. 子育て情報提供、相談体制の充実

(1) 子育てガイドブックの発行

保育サービスの情報や町内の公共施設や保育所、公園などの情報を子育て中の親に的確に伝え、利用してもらうため方法として子育てガイドブック・子育て情報誌を子育てのサポーターや当事者の母親が編集に参画し作成します。また、インターネットを利用して情報提供を行うことで、携帯電話から気軽に利用でき、情報交換、コミュニケーションの場として利用できます。

(2) 育児相談の整備

子育てに悩みや負担を感じている方がいることがニーズ調査結果からわかりました。その方々の少しでも負担を軽減するように、保育士や保健師など専門知識を有する職員による「電話育児相談」や「ふれあい子育て相談」など育児相談の場を充実する必要があります。そのため子育て支援センターの職員配置の充実が必要です。

今秋完成する「しゃきっとプラザ」のプレイルームを子育て親の居場所や相談の場として有効活用していきます。

1-2. 母子の健康確保及び増進

1-2-1. 母子保健の充実

(1) 生涯健康手帳の作成

現在の母子健康手帳を生涯使用できる生涯健康手帳とし、住基ネットを活用するなどのデジタル化を進めることでの保健の充実を図っていきます。しゃっきつとプラザを拠点に、乳幼児健診や成人健診（母親）の受診勧奨等母子保健対策の充実が必要です。

(2) 不妊治療の充実

子どもが授かりにくい夫婦への不妊治療の金銭的、身体的、精神的負担を軽減するための治療費助成制度の効果が上がるよう適切な情報提供をしていくことが重要です。

1-2-2. 食育の推進

(1) 食育学習機会の提供

子どもや保護者に食事の大切さや身体への影響などを理解してもらうために、夏休みなどを利用した親子調理教室の開催やレシピなどの情報の提供、余裕教室での食品のパネル展示などを行い、食生活に対する学習機会をつくっていきます。また、安心・安全な食材の提供を目指し地産地消についても取り組んでいきます。

1-2-3. 思春期保健対策

子どもが大人へと成長する大切な思春期は、心も体も大きく変化し、様々な悩みを抱く時期でもあります。

薬物使用、喫煙、性感染症の低年齢化が深刻化する中、思春期の身体を守る正しい知識と情報を伝えるため、学校や関連機関との連携を図り、学習機会や相談体制の充実を図ることが必要です。

また、学校以外でも啓蒙・啓発事業として医師や保健師による講座を開催します。

1-2-4. 小児医療の充実

安心してこどもがかかれる医療機関に対するニーズも高く、また子どもを安心して育てていくためには小児医療の充実というのは重要なことです。本町では、小児医療のセンター化が危惧されていることから、小児科医が定住するまちづくりと、受け入れ態勢の整備に努めます。

1-2-5. 産婦人科医療対策

町立病院の産婦人科医師の撤退は、妊婦だけではなくこれから出産を計画する人々にとって町外の医療機関への通院など負担が増大します。産婦人科医師の確保に最大限の取り組みが必要です。更に、助産師によるきめ細やかな相談体制の充実が望まれます。

1-3. 要保護児童のきめ細やかな取り組み

1-3-1. ひとり親家庭の自立支援

本町においてもひとり親家庭は増加傾向にあり、きめ細やかな支援の必要とされていますが、自立を促し支えていく支援も必要です。また、母子家庭への就業支援などの支援はもちろんのこと、父子家庭への支援も必要で、特に女の子の扱いにとまどっている家庭もあり、相談体制の充実と福祉サービスの情報提供などを推進します。

1-3-2. 障がい児施策の充実

障がい児施策の充実として、障がいに応じた的確な情報提供を行い早期に適切な医療を受けることができるよう努めます。電話相談体制を整え親へのサポートを行うとともに、専門家だけではなく当事者の参画による施策の展開、また関係機関との連携と組織づくりを推進します。

また、子育て支援の観点から「NPO 法人マイスペース美幌」の活動への支援や連携を図ります。「子どもの権利条約」の啓蒙と充実についても取り組んでいきます。

1-3-3. 児童虐待防止対策の充実

本町でも虐待相談件数が増加しています。虐待の要因としては、少子化や核家族化、地域の連帯の弱まり経済的問題など様々なものが総合的に関連して起こっているものと考えられます。身体的虐待、情緒的虐待、性的虐待、身体的放置、情緒的放置といった児童虐待を未然に防ぎ、また虐待に遭った子どもを守っていくためにも、虐待ケースワークチームの連携をより密にし迅速な対応を行っていくとともに、母親の心身の負担や育児の孤立を防ぐために、安心して楽しく育児が出来るように仲間づくり・母親同士の交流の場・母親を支える地域の体制づくりを進めていきます。

また、虐待の疑いがあるときの通報、連絡先など広報活動を取り組んでいきます。

1-4. 子育て支援のネットワークづくり

1-4-1. 子育て親子の交流推進

子育て親子の交流の場としては、子育てサロンや育児サークルの設置が望ましく、公共施設を併用したり、小学校区内に開設したりすることが考えられます。人材は保育士・保健師・看護師・教員などの退職者の掘り起こしと人材養成を推進します。

1-4-2. 子育てサポーターの養成

子育てサポーターは子育て親子を支援する人材として重要であり、実際に同じ経験・悩みを持った人たちが身近にいるということは、安心して子どもを育てることができる環境づくりを進めることにもなります。

また、仕事や疾病等の理由で保育が出来ない保護者に代わり自宅で家庭的な雰囲気の中で少人数の保育をしたり、子どもを預かる「保育ママ」のニーズが高まっています。

保育ママを導入するためには、保育ママとなる人材（保育士・保健師・教師・看護師等）の発掘と人材養成が必要となります。

子育てサポーターや保育ママの養成・登録のため、講習会の実施、多様なニーズに対応できる有償ボランティアを活用するなど利用しやすい体制を整備していきます。

1-4-3. 子育て支援のネットワークづくり

子育てサロン、子育てサークルの開設については、施設などのハード面は行政が公共施設などを活用して確保を進め、運営などのソフト面はサポートチームが中心となってい、子育て支援センターが事務局運営や指導などの支援を行っていけるようなネットワークづくりを進めていきます。

2. 子育てと仕事の両立支援

女性の社会進出により雇用機会が拡大し、就労形態の多様化が進んでいることから、多様な保育サービスの充実を目指します。仕事と家庭の両立には、男性も子育てに参加できよう、働き方の見直しが必要なことから、企業においても子育て家庭への支援が取り組まれるよう、企業への啓発にも取り組んでいきます。

2-1. 保育サービスの充実

2-1-1. 一時保育の充実

急な仕事の都合や保護者が病気にかかってしまったり妊娠や出産などによる通院したり、育児疲れのリフレッシュをしたり、セミナーや講習会、サークルに参加する時などに一時保育の利用が気兼ねなくできるということは、子育てに余裕を持つことができるとともに、子どもが一人で留守番をしなくても良い環境づくりにもなります。

現在本町で実施している一時保育は、保護者の疾病入院等及び家族の疾病、入院の付き添い等による一時保育であり、対象年齢も満1歳以上就学前児童となっており、今後対象年齢や対象人数及び利用理由の拡充などを進めます。

2-1-2. 延長保育の充実

現在本町の通年保育園で実施している長時間保育は、午後4時から午後5時30分まで行っていますが、保護者の勤務終了時間が遅く、延長保育のニーズもあることから、正規な延長保育による充実を図る必要があります。

2-1-3. 病後児保育の創設

子どもが病気回復期にあり、医療機関による入院治療は必要ないが、他の児童との集団生活が困難な時期に、その児童を一時的に預かる病後児保育は、現在本町では実施されておられません。ですが、その必要性はニーズ調査からもわかるように、保育サービスの充実を図るうえでは必要なサービスであり、今後病後児保育の創出とサービスの充実を進めていきます。

2-1-4. へき地保育所

交通条件及び経済・文化的緒条件に恵まれない集落地区において、3地区にへき地保育所を11ヶ月間（1月閉所）開設することにより、その地域の児童の福祉向上が図られているとともに、へき地保育所を核として当該家庭の子育て支援対策の促進を進めていきます。

2-2. 仕事と子育ての両立の推進

仕事と子育ての両立を行うためには、企業側の理解と協力が欠かせません。男性も含めた育児休業や出産後の仕事復帰しやすい環境づくりなどの啓蒙活動を行っていきます。

「仕事と子育ての両立」に関するアンケート調査を行い、企業の実態や意識を把握します。また、企業経営者には子育て支援事業に関する情報提供を行い、「仕事と子育ての両立」に理解を深めていただけるよう努めていきます。

2-3. 男性を含めた働き方の見直しと男性の子育て参加の促進

2-3-1. 家庭内育児休暇の促進

「家庭内育児休暇」とは、父親が子どもと過ごす時間を設けることによって母親がリフレッシュする時間ができるというものです。ほとんどの世帯では母親が主に子育てを行っているという状況にあります。男性の子育て参加を促すためにも、父親と子どもが参加できる企画を実施したり、現在ある「両親教室」を拡大し「プレママクラス」に加え「プレパパクラス」を設け、子育ての環境づくりを母親とともに学ぶ機会を増やすなど、啓発活動を進め、家庭内育児休暇の普及に努めます。

2-4. 放課後児童対策の充実

2-4-1. コミュニティハウスの開設

コミュニティハウスとは、自分たちの住む地域で、子どもからお年寄りまで、あらゆる世代がともにふれあい、語り合い、学び合う活動をとおして、地域の子どもたちを地域の人たち全体で育てようとする交流の場のことです。

完全週休二日制や共働き世帯など、子どもたちが放課後や休日に孤立する可能性が増えてきています。学童保育所を補完する場として、地域で学び、地域の人たちとふれあう機会を設け、地域も子どもたちを温かく見守り育てていくために、コミュニティハウスの開設を目指します。

3. 子どもの健全育成のための環境整備

現在子育ての段階にある子どもたちが、健全かつ豊かに育っていくことができる環境・学習機会の場を整備していくと共に、将来親となる子どもたちが親となるために必要な知識・情報を学び、子どもを産み育てる意義・素晴らしさを理解していけるよう、家庭や学校及び地域全体で見守り、育んでいくことを目指します。

3-1. 子どもや次代の親への教育環境の整備

3-1-1. 子どもの生きる力の育成

子どもに「他の人のために何かをやることの喜び」を感じられる機会、および「達成感」を感じられる地域活動の創出を行います。また、次代の担い手である子どもが個性豊かに生きる力を伸長することができるよう、学校教育、社会教育、地域が一体となって推進します。

(1) コミュニティスクールの充実と幅広い展開

コミュニティスクールやこどもまつりといった事業・イベントの開催・運営主体に小中高校生が参画し、取り組んでいきます。自分よりも年下の児童とふれあう機会も増え、次代の親となるために有益な体験の機会を広げていきます。

(2) 指導者養成講座

コミュニティスクールなどの運営主体に中高校生が参画していくことを進めるためにも、「指導者養成講座」を実施し、地域のリーダーとなる人材の育成を進めます。また、講座を継続させていくためには指導者の確保が必要なことから、学校を始め関係機関や地域との連携を進めていきます。

(3) 子どもワークショップ

ニーズ調査の一環で行った子どもワークショップを継続し、今の子どもたちが何を感じ考えているのか、直接話し合い、子どもたちが安心して育っていくことができる環境づくりに役立てます。また、子どもワークショップが将来的に発展し、「子どもサミット（仮称）」や「夢未来子ども委員会」などといった子どもが主体となったイベントの開催につなげていくことを目指します。

3-1-2. 次代の親の育成

中高校生等が、子どもを産み育てることの意義を理解し、子どもや家庭の大切さを理解できるようにするため、保育所、幼稚園、子育て支援センター及び乳幼児検診等の場などを活用し、乳幼児とふれあう機会を広げる取り組みを推進することが必要です。

(1) 中高校生と乳幼児のふれあい体験

核家族化が進行し、若い子どもや赤ちゃんとふれあう機会が少なくなっています。赤ちゃんとのふれあい体験を通じて、育児体験や生命を慈しむ心を育てる機会を充実していくことが必要です。

3-2. 家庭や地域の教育力の向上

地域社会の最小単位の各自治会の活性化を促し、人的資産いわゆる「人材」の掘り起こしと蓄積を行い、子どもや家庭を地域ぐるみで見守る力を向上させていくよう支援を進めます。回覧板といった昔ながらの地域メディアを有効活用し、様々な地域活動への参加の呼びかけやコミュニティスクールのボランティアなど幅広い協力体制づくりを進めます。さらに、多くの親が集まる機会を活用したり、地域の人材を活用した学習機会の充実が必要です。

子どもにとっての多様な体験の場として、町内ホームステイ事業に取り組み、町民ぐるみの交流活動を広げていきます。

3-3. 児童の健全育成

地域社会における児童数の減少は、遊びを通じての仲間関係の形成や児童の社会性の発達などの形成に大きな影響があるため、児童が自主的に参加し、自由に遊び過ごすことのできる放課後や休日等の居場所づくりが必要です。

現在本町では、学童保育所が開設されていますが、放課後や土、日曜日などの休日に子どもたちが集い、遊べる児童館機能を、コミュニティセンターに設け、コミュニティセンター利用者と子どもたちのふれあいの場とします。また、子育て支援センター、母子通園センターをコミュニティセンターに移し、子どもたちのニーズに沿った子どもの拠点施設整備を進め、専任職員を配置し、主任児童委員、児童委員、運営ボランティア等との連携を図り、様々な事業を展開し、子どもをはじめ、親と子どもの居場所づくりを重点的に取り組むことが必要です。

3-4. 子どもを取り巻く有害環境対策の推進

最近の青少年を取り巻く環境は、有害図書を始め、薬物乱用や喫煙に対する警戒心や抵抗感が薄れるなど様々な問題が指摘されています。

なぜダメなのかをハッキリと伝えるための教育・指導活動を推進します。また、有害図書やインターネット・携帯電話の有害情報に対する規制などの浄化活動を推進していきます。

4. 子どもと子育てに優しいまちづくり

地域で育つ子どもたちが、安心して地域で遊び・学ぶことができるよう、生活環境を整えていくと共に、子育て中の親子が快適に地域で生活していけるような生活環境の整備・まちづくりも目指します。

4-1. 子育てを支援する生活環境の整備

(1) 安心して外出できる環境の整備

妊産婦、乳幼児連れの者等が安心して外出できるよう、公共施設等における段差の解消などバリアフリー化を推進することが必要です。また、公共施設等において、子育て世帯が安心して利用できるトイレ整備等を推進することが必要です。

4-2. 子ども等の安全の確保

子どもたちを犯罪から守るため関係機関による連絡体制の強化及び迅速な対応はもちろん、地域との連携を密にしていく必要があります。青少年育成協議会の「声かけ運動」や犯罪や虐待の兆しを発見した時の通報や自治会による「子ども 110 番」設置の充実など、「子どもは地域で守る」という意識が浸透していくよう啓発活動を進めていきます。

また、交通事故をなくすために大人も含めた「交通安全」「安全な運転技術」の啓発指導を推進していきます。

4-3. 被害に遭った子どもの保護の推進

犯罪、いじめ、児童虐待等により、被害に遭った子どもの保護については、関係機関による協力体制が不可欠であり、「ケースワーク・チーム」による迅速な対応が必要となります。被害に遭った子どもに対しては、専門家によるケアをしていくとともに地域でのアフターケア体制の整備を行い、日常の生活に支障のないような環境づくりを進めます。